



よすみちゃん

弥生の出雲王に出会える

季刊

第45号

(2022年4月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

出雲弥生の森まつり2022

4月29日(金・祝) 開館記念日

オープニングイベント

出雲商業高校

書道パフォーマンス

9時30分～10時

博物館探検隊

バックヤードにはいれるぞ!

10時30分～11時30分

よすみちゃんクイズ

13時～14時

「よすみちゃん・みすよちちゃん」と写真を撮ろう!

10時～15時

西谷墳墓群史跡公園ガイド

10時～15時

4月30日(土)

オープニングイベント

「子ども獅子舞」



▲写真を撮ろう

三谷神社獅子舞保存会

9時30分～10時

子ども獅子舞

三谷神社獅子舞保存会

9時30分～10時



▲子ども獅子舞

展示ガイドサービス

花谷館長が常設展をご案内!

館長ガイド 10時～11時

企画展 11時～12時

ギャラリー展 13時～13時30分

スポーツ展 14時～14時30分

ものづくりたいけんが大集合!

古代体験フェスティバル

和同開珎づくり 10時～15時

かんむりペーパークラフト

古代出雲歴史博物館

プラ板づくり

荒神谷博物館

まが玉ネックレスづくり

八雲立つ風土記の丘

よすみコースターづくり

出雲弥生の森博物館



ペーパークラフト



▲プラ板



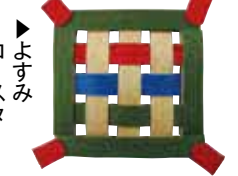
和同開珎



まが玉



ネックレス



▲よすみコースター

4月29日(金・祝)～30日(土)

屋台村・喫茶コーナー

(喫茶コーナーは29日限定)

10時～15時

キャラクター探しゲーム

「わたがし」もらえます!

「わたがし」もらえます!



▲屋台村

5月1日(日)

「まが玉」缶バッジづくり体験

10時～12時・13時～15時



▲まが玉

▲缶バッジ

5月3日・4日・5日(祝)

キャラ探しスーパードレス

プレゼントがもらえるよ!

おねがい

マスク着用、出入口での手指

消毒、体温測定、氏名・電話

番号・住所の記入にご協力く

ださい。

※感染症の拡大防止のため内容

を変更する場合がございます。

最新情報は博物館ホーム

ページをご確認ください。

★春季企画展

「てんじんムラの歴史」

―天神遺跡と周辺の調査から―

好評開催中！5月30日(月)

今回の企画展では、出雲市天神町・塩冶有原町えんやありはらに広がる天神遺跡とその周辺に分布する遺跡を「てんじんムラ」と呼ぶこととします。

天神遺跡で初めて発掘調査が行われたのは、およそ50年前、1971(昭和46)年のことで、翌年に報告書が刊行されました。その後、11回の発掘調査が行われ、その他、周辺の遺跡でも注目される発見がありました。これらの調査を通して、「てんじんムラ」での縄文時代から現在に至る人びとの営みが明らかとなりました。

この企画展では「てんじんムラ」の歴史を紹介するとともに、人びとがそこに暮らした背景について考えてみたいと思います。

現在、天神遺跡の一角は住宅街となつていますが、昭和40年代までは水田の中に集落が散在する景観でした。

「てんじんムラ」では、弥生時代中期から集落が大きくなったと考えられますが、ムラ周辺に広がった低湿地を水田などに開発す

る拠点としての性格が強かったと考えられるでしょう。天神遺跡や海上遺跡では、低湿地に水場をつくり、加工途中の木製品や木材を保管した場所が見つかっています。近くに木製品の工房があったようです。こうした木材の集積も拠点的な性格を示すと言えるでしょう。

弥生の「てんじんムラ」の集落は古墳時代初めに衰退し、その後も人びとの活動は盛衰を繰り返したようですが、古墳時代から古代中世に至るまで、同様に周辺を開発する拠点だったと考えられます。

天神天満宮北側の調査で、奈良時代の倉庫の跡が見つかっており、近隣から税として集められた稲などが収められたと考えられます。

さらに、山陰本線沿いの天神北公園近くの調査で奈良時代の瓦がまとまって出土し、その量から瓦を棟にのせた建物が近くにあったことが分かりました。天満宮から北公園に及ぶ広い範囲に、役所に関する施設の存在を推定できます。

「てんじんムラ」の名は、天神天満宮に由来します。古文書や棟札から、戦国時代には存在したと分かります。

この天神天満宮の参道や境内と

同じ方向を向くのが、天満宮から東へ200mのところにある浄音寺です。本堂の北から西にかけて土塁が残り、「伝塩冶氏館跡」と伝わります。この居館跡で注目されるのが、近世の石州街道との関係です。塩冶町海上付近から南に折れて進むと、再び屈曲して居館跡を避けるようにして通ったので、つまり、石州街道は居館に關わって設定されたと言え、居館は交通上の拠点であったと考えられます。したがって、中世から天神天満宮の位置が変わらないとすれば、天満宮は館跡の主によつて勸請された可能性が高いと言えます。

このように「てんじんムラ」は、出雲平野での開発拠点の一つとして長く存在してきたと言えるでしょう。

(高橋 周)



溝跡で見つかった土師器
(天神遺跡・古墳時代初め)

★ギャラリー展

「徹底解説！日本博in出雲」

好評開催中！7月4日(月)

「日本博」は、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えてスタートした、大型国家プロジェクトです。総合テーマ「日本人と自然」の下に、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外に発信し、次世代に伝えることで、更なる未来の創成を目指しています。

全国各地でこの「日本博」関連のプロジェクトが進められる中、出雲市においても令和2年度から、「神々の集う国『出雲』体験フェスタ〜日本博in出雲〜」(以下、「日本博in出雲」という)と銘打ったプロジェクトを実施しています。

「日本博in出雲」の内容は、VR/AR技術を応用したデジタルコンテンツの開発、歴史観光資源を紹介するプロモーション映像の制作、展示施設や観光スポットへの周遊促進、出雲神楽の公演やワークショップの開催、出雲の地酒PRイベントの実施など、多岐にわたります。

残念ながらコロナ禍で中止と

徹底解説!

日本博 in 出雲



なった催事もありますが、今回の展示では、令和2～3年度に実施した「日本博in出雲」の取組を、パネル等で詳しくご紹介いたします。

さらに、「日本博in出雲」で作製した神楽面なども、傍らにブースを設けて展示いたしますので、この機会にあわせてご覧ください。

本展示が、全国に誇る「出雲の魅力」を再発見する契機となれば幸いです。

(三原 一将)

★スポット展

「徹底解明！常楽寺柿木田1号墳
— 神西湖南岸の古墳文化をさぐる —」

好評開催中！5月30日(月)

古墳時代前半期の神西湖南岸に常楽寺柿木田1号墳(前方後円墳)は築かれました。当時の神西湖は日本海とつながる入江であり、水上交通の要所でした。

当古墳の発掘調査では、河原石の礫床と枕石を持つ埋葬施設が見つかりました。同様の埋葬施設は周辺の古墳でも確認されています。古墳時代前半期には地域特有の埋葬施設が発達し、独自の古墳文化を形成したと考えられます。

スポット展では、常楽寺柿木田1号墳の調査成果や周辺古墳の状況をもとに、神西湖南岸の古墳文化について考えます。(幡中光輔)



常楽寺柿木田1号墳上空から
神西湖・北山山系と日本海を望む

★古文書の森をゆく⑩

旬の贈り物

「御地産和布、他へ進物に致したくせうろう」：出雲市多伎町でかつてたたら製鉄に関わっていたお宅で見つかった書状には、進物用としたいので出雲国産の上等なワカメを調達して欲しい、との依頼が書かれていました。現在も島根のワカメは特産物であり、乾燥させた板ワカメはお土産としても人気です。

ご飯のお供や味噌汁の具として欠かせないワカメは「メノハ」とも呼ばれ、松江藩の様々な名物を相撲の番付に見立てた「雲陽国益鑑」では、前頭十三枚目に「浦々の和布」としてランキングしています。ワカメが他国に売り出され、「国益」となる産物であった事が判ります。さらに、江戸時代末に作成された「出雲名物番付」には「日御碕の和布」が挙げられています。特に有名だったようです。

日御碕神社では社伝に基づき、毎年旧暦の1月5日に神職がワカメを採取し、御祭神に供える和布刈神事が行われており、一年の漁の安全と豊漁を祈ります。神事が終わるとその年のワカメ漁が始ま

ります。

さて、ワカメの旬は3月下旬から5月下旬ごろで、冒頭のワカメの調達依頼が送られたのは旧暦の5月下旬、新暦では6月半ばごろです。ちょうど新ワカメが市場に出回る時期ですから、進物用にピッタリの品と言えます。手紙の送り主は石見国の内陸、大森銀山の住人だったので、海岸部に住む受け取り主に調達を頼んだのでしょう。乾燥させれば日持ちし、軽くて運びやすいワカメは、海産物に縁遠い山間部でも手に入る海の幸として喜ばれた品でした。

ワカメは昔から、商品としても贈答品としても優秀な出雲の特産物だったのです。(荒川英里)



『和漢三才図会』九十七巻 水草類より
(国立国会図書館デジタルコレクション)

※江戸時代の百科事典では石に生え、昆布に似ていると書かれている。

★展示のご案内

▼春季企画展

好評開催中〜5月30日(月)

「てんじんムラの歴史

―大神遺跡と周辺の調査から―

●ギャラリートーク

4月24日(日)・5月22日(日)

※いずれも10時から

▼ギャラリー展

好評開催中〜7月4日(月)

「徹底解説！日本博in出雲」

●ギャラリートーク

5月29日(日)10時から

▼スポット展

好評開催中〜5月30日(月)

「徹底解剖！常楽寺柿木田1号墳

―神西湖南岸の古墳文化をさぐる―

★イベントのご案内

▼出雲弥生の森まつり2022

4月29日(金・祝)

4月30日(土)

5月1日(日)

5月3日(火・祝)〜5日(木・祝)

詳しくは
1ページへ!



★講座のご案内

▼職員リレー講座

●受講料 各3000円

①6月11日(土)14時〜16時

「鰐淵寺の調査」(仮)

●講師 石原 聡

②6月25日(土)14時〜16時

「出雲市内の古文書」(仮)

●講師 春日 瞳

③7月9日(土)14時〜16時

「重要文化財 日御碕灯台」(仮)

●講師 吾郷 誠

▼企画展関連講演会

7月2日(土)14時〜16時

「瀬戸内の弥生墓に

供えられた土器

―伊予(愛媛県)を中心に―

●講師 松村 さを里 氏

※新型コロナウイルス感染拡大防

止のため中止となった冬季企

画展関連講演会を開催します。

最新情報は博物館ホームページ

をご確認ください。

講座の申込について

定員50名 当日受付なし

事前申込必須(電話・FAXのみ)

●申込受付時間 9〜17時

●必要事項 氏名・電話番号・住所

※講座当日は、マスク着用、手指消毒、

体温測定にご協力ください。

★館長古来夢

ちょうど50年前の1972年3

月27日、新聞各紙の朝刊1面を飛

鳥美人たちの写真が飾った。奈良

県明日香村での高松塚古墳壁画発

見を報じる記事だった。

2日後の29日には「カラー特報」

として色鮮やかな飛鳥貴婦人の人

物群像や玄武・青龍・朱雀・白虎

の四神、日月と星座を表現した天

井画などが紙面を彩った。高校に

あがる直前の私も、この色鮮やか

な壁画に衝撃を受けた記憶があ

る。

高松塚古墳の石室は、タテヨコ

1m、奥行2mほどの小さな箱で、

凝灰岩の切石を組んで作られてい

る。その内面全体をしつこい塗

りこめてカンバスとし、そこに極

彩色の絵画が描かれていた。

高松塚古墳壁画は、考古学だけ

でなく、古代史や美術史、保存科

学などが各々の境界を越えて共同

で研究する学際研究だけでなく、

中国や韓国の学者を巻き込んだ国

際研究をも進めることとなった。

さらに古代史ブームに火をつけ

たのもこの壁画だった。マスコミ

も文化財や遺跡発掘を記事に取り

上げるようになっていく。

奈良で発掘の仕事始めて驚い

たのは、新聞各社とも奈良支局に

文化財担当記者を置いていること

だった。記者の面々はよく発掘現

場に顔を出していた。ただ現場の

記者発表は共同会見となる。各紙

の記事には差が出ていく。足しげ

く通ってくれた記者には後日、会

見で出さなかつた小ネタを提供し

て苦労に報いたこともあった。

出雲市に来てから、矢野遺跡で

山陰最古の弥生土器が見つかつ

た。赤い太陽のような絵が珍しく

報道発表したのが、どの社も反応し

ない。奈良で親しくしていた記者

に連絡すると大いに興味を示し、

関西版の記事にしてくれた。その

土器は今、博物館の展示室を照ら

してくれている。(花谷 浩)

(発行)出雲弥生の森博物館

2022年4月

〒693-0011

島根県出雲市大津町2760

(TEL) 0853-25-1841

(FAX) 0853-21-6617

(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp

http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料/無料

●開館時間/9:00~17:00

(入館は16:30まで)

●休館日/火曜日

(祝日の場合は翌平日)

年末年始

